

北見工業大学学報

第229号 (2008年9月号)

目 次

学位記授与式	平成20年度9月期学位記授与式举行……………	3
入 試	大学院入学試験の実施……………	4
	平成21年度学生募集要項の公表……………	5
研 究 助 成	平成20年度共同研究の受入状況……………	7
	平成20年度受託研究の受入状況……………	7
	平成20年度奨学寄附金受入状況……………	8
人 事	人事異動……………	9
国 際 交 流	台湾勤益科技大学との国際交流締結……………	10
	韓国 慶尚大学 交流研修を終えて……………	11
諸 報	校舎改修工事の開始……………	13
	科学研究費補助金パワーアップセミナーを開催……………	14
	サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)事業を実施……………	15
	おもしろ科学実験を開催……………	16
	北見工業大学「技術士養成支援講座」の閉校式……………	17
	地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議、 大空町にて開催……………	18
	メンタルヘルス講演会、メンタルヘルスサポート研修会を実施……………	19
	SVBL 招へい研究員・バイオダイナミクス講演会を開催……………	20
	北海道中小企業家同友会全道研究集会、本学にて開催……………	21
	父母懇談会(秋季・札幌)を開催……………	22

		財務諸表等の開示	23
		SVBL オープンラボ(研究報告会)を開催	23
計	報	林正道名誉教授	24
日	誌	8月・9月	25



= 学位記授与式 =

平成 20 年度9月期学位記授与式举行

(総務課)

平成 20 年度9月期学位記授与式が、9月 12 日(金)午前 10 時から、本学第2会議室で行われました。

今回の授与式は、理事、副学長、事務局長、指導教員が列席するなか、大学院工学研究科博士前期課程機能材料工学専攻修

了者の李稚鷗氏、大学院工学研究科博士後期課程システム工学専攻修了者の酒井大輔氏、納谷宏氏に対し、鮎田学長から学位記が授与されました。

なお、論文博士のモハメド ロフィクル イスラム氏は、都合により欠席されました。



←学長より学位記授与の様子



学位記授与される学生→

= 入 試 =

大学院入学試験の実施

(入 試 課)

平成 20 年度秋季及び平成 21 年度大学院入学試験が、8 月 25 日～27 日に実施されました。

課程別専攻別の合格者数等は次表のとおりです。

平成 20 年度(秋季)博士前期課程(外国人留学生特別選抜)

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
機械システム工学専攻	若 干 人	0	0	0
電気電子工学専攻		0	0	0
情報システム工学専攻		2	2	2
化学システム工学専攻		0	0	0
機能材料工学専攻		0	0	0
土木開発工学専攻		1	1	1
合計		3	3	3

平成 20 年度(秋季)博士後期課程(社会人選抜)

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
システム工学専攻	若干人	2	2	2
物質工学専攻		1	1	1
合計		3	3	3

平成 21 年度博士前期課程(一般選抜)

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
機械システム工学専攻	16	37	34	33
電気電子工学専攻	16	21	20	15
情報システム工学専攻	16	10	10	10
化学システム工学専攻	14	16	16	16
機能材料工学専攻	10	22	22	20
土木開発工学専攻	20	16	16	16
合計	92	122	118	110

平成 21 年度大学院博士後期課程

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
システム工学専攻	7	0	0	0
物質工学専攻	5	1	1	1
合計	12	1	1	1

平成 21 年度学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 21 年度北見工業大学学生募集要項(一般選抜・特別選抜)が 10 月に公表されました。

要項の内容は、7月に公表された入学者選抜要項の内容を含め、出願手続、個別学力検査実施日程の詳細、検定料その他入学者選抜上の具体的事項及び留意点を記載し、出願書類等を同封したものです。

募集要項の主な内容は以下のとおりです。

一般選抜

特別選抜(推薦入学・帰国子女特別選抜)

<p>1. 募集人員 下記別表のとおり</p> <p>2. 願書受付期間 平成 21 年 1 月 26 日(月)～2月4日(水)</p> <p>3. 個別学力試験の期日 前期日程 課しません 後期日程 平成 21 年 3 月 12 日(木)</p> <p>4. 合格者の発表 前期日程 平成 21 年 3 月 6 日(金) 後期日程 平成 21 年 3 月 20 日(金)</p> <p>5. 入学手続期間 前期日程 平成 21 年 3 月 9 日(月)～3月15日(日) 後期日程 平成 21 年 3 月 21 日(土)～3月27日(金)</p> <p>6. 追加合格通知期間 前・後期日程とも 平成 21 年 3 月 28 日(土)～3月31日(火)</p>	<p>1. 募集人員 下記別表のとおり</p> <p>2. 願書受付期間 平成 20 年 11 月 4 日(火)～11月10日(月)</p> <p>3. 選抜試験の期日 平成 20 年 12 月 5 日(金)</p> <p>4. 合格者の発表 平成 20 年 12 月 17 日(水)</p> <p>5. 入学手続期間 平成 21 年 1 月 19 日(月)～1月23日(金)</p>
---	--

○募集人員

系・学科名		入学定員	募集人員		
			前期日程	後期日程	推薦入学
機械・社会環境系	機械工学科	160人	64人	56人	40人
	社会環境工学科				
情報電気エレクトロニクス系	電気電子工学科	140人	63人	42人	35人
	情報システム工学科				
バイオ環境・マテリアル系	バイオ環境化学科	110人	46人	36人	28人
	マテリアル工学科				
工学部合計		410人	173人	134人	103人

※入学後1年間は各系に所属し、2年次進級時に本人の志望及び学業成績により系内の学科に移行します。

- 注① 後期日程の募集人員には、各系とも帰国子女特別選抜の募集人員若干人を含みます。
 ② 推薦入学の合格者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を後期日程の募集人員に加えて募集します。

○個別学力検査 日時・会場

- ・日時（後期日程）

期日	教科	時間
平成 21 年 3 月 12 日(木)	数学	10 : 00 ~ 12 : 30
	理科	14 : 00 ~ 15 : 30

- ・受験会場 北見工業大学または大阪会場（関西大学千里山キャンパス）



= 研究助成 =

平成20年度共同研究の受入状況

平成20年9月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
国際交流センター	教授	山岸 喬	高ケルセチンたまねぎ有望系統の有効利用法の開発	北海道立北見農業試験場/ (株)グリーンズ北見
バイオ環境化学科	教授	鈴木 勉	天然繊維の触媒炭化による電磁波遮蔽用炭素の製造	協同組合ラテスト
社会環境工学科	教授	川村 彰	視線誘導灯の設置が運転挙動に与える影響に関する調査研究	ネクスコ・エンジニアリング 北海道
共通講座	准教授	柳 等	スノーシャベルによる除雪作業におけるセカンドハンドルの効果-積雪寒冷地における冬期ライフスタイル・イノベーションに関する研究-	(株)ドーコン
電気電子工学科	教授	平山 浩一	光導波路設計手法の研究	住友電気工業(株)
マテリアル工学科	准教授	宇都 正幸	牛糞・ホタテウロ混合嫌気発酵における残存カドミウムの除去技術に関する研究	(株)中央製作所
機械工学科	教授	富士 明良	新時代工学的素養を有する中核人材の育成	(社)北見工業技術センター 運営協会
機械工学科	教授	柴野 純一	水素透過複相合金の内部ひずみ測定	(社)北見工業技術センター 運営協会
国際交流センター	教授	山岸 喬	ハマナスポリフェノールに関する研究	協和発酵工業(株) ヘルスケア商品開発センター
機械工学科	教授	羽二生 博之	3Dレーザスキャニングシステムの地形測量分野への応用に関する研究	(株)タナココンサルタント
マテリアル工学科	准教授	南 尚嗣	菜種枝葉部の微量重金属およびその濃集性に関する調査研究	(財)オホーツク地域振興機構
情報システム工学科	講師	後藤 文太郎	オホーツクブランド形成支援におけるWebブランディング及び動画共有サイトの活用	(財)オホーツク地域振興機構
電気電子工学科	准教授	菅原 宣義	損傷がいの絶縁性能調査～アーク痕の簡易な補修方法の研究～	北海道電力(株)
地域共同研究センター	教授	鞘師 守	地方行政の政策決定における大学の役割	日産自動車(株)
マテリアル工学科	教授	高橋 信夫	BDF粘度特性およびBDF触媒特性改善に関する基礎研究	(財)オホーツク地域振興機構

平成20年度累計 80件

平成20年度受託研究の受入状況

平成20年9月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費 円
マテリアル工学科	准教授	南 尚嗣	平成20年度GEMS/Waterベースライン(湖水の精密分析)委託業務	(独)国立環境研究所	999,000
マテリアル工学科	准教授	伊藤 英信	水銀鉱山技術を活用した廃乾電池由来高性能低コスト脱Mg材の開発	(財)北海道科学技術総合振興センター (ノーステック財団)	98,700
社会環境工学科	教授	中山 恵介	常呂川の流域土砂管理に関するモデル開発	網走開発建設部	3,330,000
地域連携・研究戦略室	特任教授	多田 旭男	メタンを水素とナノ炭素に直接改質する新技術と温暖化抑制効果	(独)新エネルギー・ 産業技術総合開発機構(NEDO)	5,200,000

平成20年度累計 18件

平成20年度奨学寄附金受入状況

平成20年9月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄 附 金 額 円
電気電子工学科	准教授	菅原 宣義	配電用機材の塩雪害および急速汚損に関する研究のため	北海道電力(株)	1,000,000
機械工学科	教授	田牧 純一	工学研究の助成	(株)ニートレックス	200,000
保健管理センター	教授	本田 明	臨床医学研究のため	ジブラルタ生命北見支部	5,000
マテリアル工学科	教授	高橋 信夫	貴金属触媒の基礎的研究notama	田中貴金属工業(株)	500,000
国際交流センター	教授	山岸 喬	教育研究助成のため	(株)カイゲン	700,000
機械工学科	准教授	渡辺 美智子	制御情報工学に関する研究のため	(株)システム ラボ ムラタ	500,000
マテリアル工学科	教授	青木 清	貴金属ろう材料の研究助成費のため	田中貴金属工業(株)	500,000
機器分析センター	講師	大津 直史	医用工学研究のため	北見医工連携研究会	200,000
電気電子工学科	准教授	菅原 宣義	ダイレクトモールド気中終端接続部の低温特性に関する研究のため	(株)エクシム 電力機器部	750,000
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	「砂州上に生育しているヤナギの生育と砂州の形成状況の把握」、「河道変化状況踏査」に対する研究助成のため	(財)リバーフロント整備センター	1,000,000
社会環境工学科	教授	中山 恵介	工学研究のため	(財)クリタ水・環境科学振興財団	750,000
地域共同研究センター長	教授	高橋 修平	オホーツク地域の行政・民間機関との共同研究・研究交流及び技術指導、教育、開発等を推進するため	北見工業大学地域共同研究センター推進協議会	1,680,000
北見工業大学	学長	鮎田 耕一	北見工業大学における学術振興・国際交流等事業、奨学金及びその他の大学活性化事業等に供する事を目的とするため	北見工業大学 学術振興・国際交流等事業を支援する会	253,000
情報システム工学科	准教授	原田 康浩	工学研究のため	原田 康浩	1,500,000

平成20年度累計 43件

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
20.9.1	大臣官房文教施設企画部参事官付	立花 智亜喜	施設課技術職員



台湾勤益科技大学との国際交流締結

(研究協力課)



7月28日(月)、台湾勤益科技大学(National Chin-Yi University of Technology)の林灶生教授、陳文淵教授、曹振東教授、黄世演教授が本学を訪れ、本学と台湾勤益科技大学との学術・教育交流協定書の交換を行いました。本学と台湾勤益科技大学とは、以前から本学の教員と共同研究を行っているなど交流が盛んであり、今後も引き続き研究者及び学生の交流についても進めていくことが確認されたため、「学術・教育交流協定」及び「学生交流に関する覚書」を締結する運びとなりました。

残念ながら、今回、本学を訪問される予定だった陳坤盛学長は所用により来ることができませんでしたが、今後の研究者、学生の交流や国際共同研究について、本学学長との間で有意義な話し合いが行われました。

また、今年度は同じく台湾の中国医薬大学との学術・教育交流協定の締結も承認されており、今年度、両大学を訪問し、研究者、学生の交流や国際共同研究について話し合うためのプログラムを計画しています。

なお、今回の協定締結で本学の学術・教育交流協定大学は8か国18大学となりました。



協定書の取り交わし

韓国 慶尚大学 交流研修を終えて

(研究協力課)

8月18日(月)から5泊6日の日程で、韓国の晋州市にある国立慶尚大学校工科大学との交流研修がありました。本学からは9人の学生が参加し、韓国の学生さん達と交流を深めました。

慶尚大学は学生数2万の総合大学であり、今年でこの研修プログラムは10年目を迎えました。隔年の相互訪問となっています。

初日はバスで晋州市に移動。大学の正門に立派な横断幕が掲げてあり、学生は感動した様子でした。大学に到着してから開講式で韓国の学生会の皆さんと顔を合わせ、キャンパスツアーで大学構内を散策しました。



歓迎横断幕の前にて (正門)

2日目は講義の後、晋州市内の見学に出かけましたが、皆の印象に深く残ったのは晋州城だったようです。要塞として、戦地となった場所ですが、皆、ガイドさんの話に熱心に耳を傾けていました。

3日目、4日目は1泊2日で樂安と咸陽を訪問しました。POSCO 製鉄所を見学、昼食は両班(リャンパン)定食を食べ、樂安にある民族



晋州城前でジャンプ!

邑(むら)を見て回りました。この民族邑には現在も人が住んでいるため、昔ながらの生活を垣間見ることができました。

3日目の夜は韓国の学生さん達がゲームを準備してくれて、大いに楽しんだようです。日本とは違う楽しみ方を経験できたのではないのでしょうか。咸陽郡守訪問の際に、学生達が名刺に書かれているハングルを読んだのを見て、郡守さんが「凄い！」と感心されていたそうです。事前韓国語学習が実を結びました。今後も続けて頑張って、意思疎通ができるようになれば、と思います。1泊2日という短い時間でしたが、とても内容の濃い旅行だったようです。

研修最終日、【晋州市の歴史・チャングムに見る韓流】という講義は興味深かったようで、皆、真剣に聴いていました。



研修最終日の講義風景

授業後は、お別れ会・ボーリング・ナイトクラブと盛りだくさんの内容で、思う存分楽しんでいるようでした。お別れ会で韓国の学生会長が言った「会えると信じていれば必ず会える」という言葉に感激した学生もいました。気持ちが

通じ、良い関係が築けた証拠でしょう。

2008年夏、様々な問題で日韓関係が不安定な中の訪韓でしたが、この交流を通じて得た友人と経験を糧に、韓国との懸け橋となってくれることを願ってやみません。



集合写真

校舎改修工事の開始

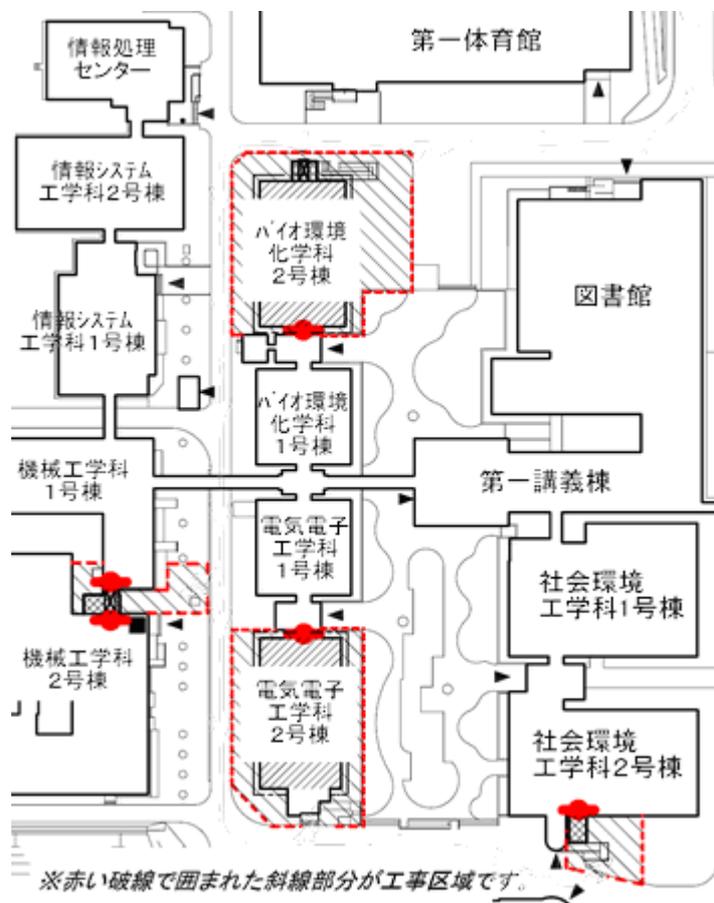
(施設課)

平成 20 年 7 月 29 日、本学電気電子工学科 2号棟及びバイオ環境化学科2号棟の校舎改修工事が始まりました。

当該建物は築後 30 年を経過していたため、老朽化が著しい状況でした。そのため平成 20 年の改組に伴い、教育研究の多様化に対応すべくスペースの再配置・再配分を行い、教育

研究に関する機能改善を図るとともに、耐震補強を行う事で安心安全な研究環境を確立するため計画・整備を行うこととなりました。

完成は平成 21 年 3 月 10 日を予定しており、付近建物を利用している皆様には通行規制等のご不便をおかけしますが、何とぞ御協力よろしくお願い致します。



「科学研究費補助金パワーアップセミナー」を開催

(研究協力課)

7月30日(水)、総合研究棟多目的講義室において「科学研究費補助金パワーアップセミナー」と題した科研費説明会が開催されました。

セミナーでは、独立行政法人日本学術振興会研究事業部研究助成第一課 岡本 和久課長、ならびに文部科学省科学技術・学術政策局調査調整課競争的資金調整室 吉野明 競争的資金調査官の2名を講師にお招きし、鮎田耕一学長の挨拶の後、岡本課長は「科学研究費補助金制度の概要」、吉野競争的資金調査官は「競争的資金の不正防止に向けた取組について」について講演を行いました。

岡本課長からは科学研究費補助金の制度や構造、研究計画調書作成上のポイントについて、また、吉野競争的資金調査官からは研究費の不正防止等の重要性についての説明があり、参加者はお二方の話に熱心に耳を傾け、頷きながらメモをとるなど、科研費についてより理解を深めたようでした。

なお、本セミナーには本学をはじめ、オホーツク管内の日本赤十字北海道看護大学、東京農業大学、釧路公立大学からも教職員が来学し、総勢80名の参加となりました。



鮎田学長の挨拶



セミナー会場の様子



科研費制度等について講演する岡本課長



不正防止について講演する吉野競争的資金調査官

「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)事業」を実施

(学生支援課)

本学では、独立行政法人科学技術振興機構において実施する「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)事業」に採択され、7月31日(木)～8月1日(金)の2日間、地元の北見工業高等学校との連携により「講座型学習活動」を実施しました。

テーマは「エンジン体験教室 –その仕組みから環境への影響まで–」で、機械工学科の林田准教授と石谷助教が中心となって実験等を実施しました。

両日とも、同校の1・2年生を中心に20名を大学に招いて、

1. エンジンの分解・組立て
2. エンジン試験
3. スターリングエンジンの製作

を行いました。それぞれのテーマごとに本学のTA学生からきめ細かい説明や実験補助があり、高校生たちは、機械工学の知識と技術及びエンジン試験を通じ、環境・エネルギー問題に対する問題意識について興味や関心をさらに高めました。

最後に、各自が製作したスターリングエンジンの走行距離コンテストを行い、上位者には講師から高価な景品が授与されました。



エンジンの分解・組立ての様子



スターリングエンジンの走行距離コンテスト

おもしろ科学実験を開催

(企画広報課)

8月9日(土)、おもしろ科学実験が開催されました。

夏休み中の小中学生を対象として、子供たちにもものを作る喜びや、科学の不思議を体験してもらおうと、平成12年度から毎年開催されているもので、今年も協賛の北海道電力(株)北見支店の実験を含め19の実験が行われ、約500人の子供たちが参加しました。

開会式の田村実行委員長の挨拶の後、子供たちはそれぞれの実験に取り組み、最後は修了証書が参加者一人ひとりに手渡されました。



開会式で挨拶をする田村実行委員長



真剣な眼差しで実験に取り組む子供たち

No.	テーマ
1	紙飛行機から学ぶ飛行のしくみ
2	むだなエネルギーを使わない歩行ロボットを作ってみよう!
3	作ってあそぼう、空気であそぼう
4	鉱物の色のふしぎ
5	洪水のときに起きる現象を知ろう
6	セメントで工作を作ろう
7	魔法のランプ【第2話】
8	ふって、ふって、発電! LEDを光らせよう
9	コンピュータでロボットを動かしてみよう!
10	虹をつくろう
11	川の水をさぐってみよう
12	生命の設計図を見る! 触る! ーサケの白子からのDNA抽出ー
13	スライムを作ってあそぼう
14	金属に「形」を勉強させよう
15	ペットボトル風車を作って風力発電にチャレンジ!
16	原始人?火おこしに挑戦!! ～エネルギー・地球環境を考える～
17	地球に優しいエネルギーを学ぼう!!
18	くるくる回して風力発電
19	偏光板のふしぎ ～ふしぎなおもちゃを作ろう～ (北海道電力(株)北見支店提供)

北見工業大学「技術士養成支援講座」の閉講式

(研究協力課)

8月22日(金)、札幌サテライトにおいて開講されていました平成20年度の北見工業大学「技術士養成支援講座」閉講式が行われました。

本講座は、札幌市近郊に在住する本学の土木開発工学科卒業生を中心とした社会人を対象として、札幌在住の本学出身技術士7名及び北見在住の2名が講師となり、実践的な講義内容を親切・丁寧に指導し、「技術士」の資格取得を支援するもので、昨年度に引き続き開講されました。

開講期間は、本年1月から7月までの第1月曜日及び第3金曜日に合計13回、開講時間については、勤務後に参加しやすいように18時から2時間で実施しました。

閉講式は、受講者18名のうち9名が出席し、高橋理事から一人一人に「受講証書」が手渡された後、長期間にわたる講座の閉講にあたっての挨拶があり、次いで受講者代表からの謝辞をもって閉会となりました。引き続き、本年度の北海道洞爺湖サミットの開催に併せ

て作成した道東3大学の研究紹介DVDを視聴した後、理事、各講師とともに記念撮影を行いました。

閉講式終了後の交歓会では、受講者から講座受講の感想、8月2・3日に実施された筆記試験の感触及び次回の論文作成・口頭試験に向けた決意等、各講師からは、指導上の反省点などが披露され、和やかな雰囲気うちに終了しました。



理事からの挨拶



理事を囲み受講者及び講師

地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議、大空町にて開催 (研究協力課)

8月28日(木)に、今年度第1回目となる地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議が大空町女満別研修会館で開催されました。

本会議は、オホーツク地域の経済発展を目指し、周辺自治体・公設試験研究機関等・本学との包括連携等協定締結先及び密接な協力関係にある諸機関の関連部署の担当者に「産学官連携推進員・協力員」を委嘱し、産学官連携に関する事項の協議・情報交換を実施し、地域経済の振興を目的に活動を続けています。主として北見市内の各機関からの構成による産学連携推進員会議を原則月1回本学で開催し、この会議に周辺自治体や協力機関の担当者による産学官連携協力員を加えた合同会議を、昨年度は網走・紋別・北見3地区で巡回開催しました。

今年度のこの第1回合同会議に、新メンバーのノーステック財団も加入し、オブザーバーとして網走支庁・北海道中小企業総合支援センターからの参加もあり、本学関係者を含めて総勢34名の会議となりました。

昨年度はオホーツク地域における課題解決の為に基礎データとしてアンケート調査を行い、運命共同体としての共通認識と問題解決への活動を開始しました。

今年度は更に踏み込んで、ユニークな事業を実施している機関の事例紹介によりヒントを得る事を目的に、今回は東京農業大学で実施している「エミュー(笑友)に係る産業のモデル構築・推進」事業と、美幌町が時代に先駆けて昭和42年から取り組んでいた企業立地促進事業に関する紹介がなされ、大きな関心が寄せられました。

特にエミュー(ダチョウ系ではなくヒクイドリ系)の鶏卵の10倍の大きさの卵や、オーストラリア原産のエミューが、冬の網走で平気で屋外活動している生態などは大変興味を引き、以後の意見交換においても、販路拡大方法や新事業創出に向けた各機関での取り組みの紹介やアドバイスが多く寄せられ、意義ある会議となりました。



第1回合同会議風景(大空町女満別研修会館 大会議室)

メンタルヘルス講演会、メンタルヘルスサポート研修会を実施

(学生支援課)

8月28日(木)、北星学園大学教授 清水信介氏を講師に招き、教職員を対象としたメンタルヘルス講演会を実施しました。

講演では、「学生の適応問題への支援について考える」と題して、最近の学生相談・学生支援における課題や、学生の適応問題とその特徴について説明がありました。

また、適応問題を抱える学生に対応する際の留意点等についても語られ、たとえ短くても時間を確保してじっくり学生の話聞くことの大切さや、面談には適切な時間の「枠」を設けること、学生に関わりすぎることへの弊害等についての説明があり、普段、学生の様々な相談に応じることとなる教職員は、熱心に耳を傾けていました。

さらに、9月24日(水)には、北海道教育大

学釧路校准教授 二宮信一氏と本学学生相談室カウンセラー 白川純子氏を講師に招き「メンタルヘルスサポート研修会」が実施され、二宮先生には「発達障害のある学生支援の必要性について」と題した講演を、また、白川先生には発達障害に関する事例について、実践的なロールプレイングをご指導いただき、参加した教職員からは、積極的に質問や意見が寄せられました。

今後、ますます、学生や同僚等から相談が寄せられる場面や、心理面での健康管理の必要性が高まっていくことが予想されることから、メンタルヘルスについての講演会や研修会を、内容を充実させながら継続的に実施していくこととしています。



上段:講演会の様子 下段:研修会の様子

「SVBL 招へい研究員・バイオダイナミクス講演会」を開催

(情報システム工学科)

SVBL 外国人招へい研究員として、Dr. Cornelia Kober が平成 20 年9月6日(土)から17日(日)まで滞在されました。Dr. Kober は、ドイツ・ハンブルグの Hamburg University of Applied Sciences の教授で、Computer-Aided Biomechanics を専門分野としています。

8日「SVBL 招へい研究員・バイオダイナミクス講演会」を、主催:バイオダイナミクス研究推進センター、共催:日本材料学会北海道支部により、約 50 名の聴衆を集めて実施しました。講演は、Computer aided Biomechanics as a Link between Medicine, Mechanical Engineering, and Computer Science(邦題:コンピュータ支援バイオメカニクス:医学・医療、機械工学及びコンピュータ・サイエンスの連携として)と題して行われました。3次元および4次元における医用デジタル画像処理を、眼、下顎骨・顎関節・側頭骨、上腕あるいは股・膝・足の各関節について供覧していただきました。さらに、人体のモデリングとシミュレーションについて、下顎骨・顎関節・側頭骨と足関節を

例に取り上げて解説されました。臨床の X 線 CT や MRI の画像を駆使したビジュアライゼーション、モデリングそしてシミュレーションを放射線科医、整形外科医、眼科医、歯科医(口腔外科医、歯科矯正医、歯周治療医)らと共同で行っている研究として紹介していただきました。

その後の滞在期間を通して、情報システム工学科の認識と学習(パターン情報工学)研究室(受け入れ教員・早川准教授)のほか、機械工学科の計算力学、材料力学、メカトロニクスおよび知的システム工学の各研究室、さらにモーションキャプチャ実験室で教員・大学院生とディスカッションを連日行いました。

SVBLでは、鈴木聡一郎プロジェクトとしてバイオダイナミクス研究が行われています。この分野の研究推進を図るために Dr. Kober には大変ご活躍いただきました。学生を交換するアイデアもあり、今後も共同研究を発展させていきたいと思っています。



講演を行う Dr. Cornelia Kober



計算力学研究室でディスカッションする様子

北海道中小企業家同友会全道研究集会、本学にて開催

(研究協力課)

9月5日(金)、6日(土)の2日間、本学を会場に、北海道中小企業家同友会全道研究集会が開催されました。この大会は今回で27回目となる歴史があり、北見開催は9年ぶりです。平成18年に本学も同友会オホーツク支部に加盟したことから、全道研究集会としては初めての大学での開催となりました。参加者約500名の大研究集会となり、開会式では神田北見市長、本学鮎田学長からエールを込めた挨拶があり、11の分科会において熱い研究集会が始まりました。

分科会は企業が抱える身近な諸問題である「人育て」・「地域と交通」・「経営指針」・「事業継承」・「起業」・「経営戦略」・「地域と医療」などの他、本学を開催場所としたことから「北見工大道研ゼミ」と称し、高橋修平教授の「流水ゼミ～流水の謎に迫る～」、山岸喬教授の「バ

イオゼミ～道産素材の可能性～」、羽二生博之教授の「GPSゼミ～位置情報を活用した新技術～」の3つのゼミ講座も開かれました。

大学ゼミ講座は、全道研究集会としては初めての試みであり、興味を持って参加した各企業家からは活発な質問・意見交換があり、それに応じて各教授は熱弁をふるっておられました。

また、イベントの一環で、いま過疎地の公共交通機関代替案の切り札として注目されているD.M.V.ことデュアル・モード・ビークル(線路・道路両方が走行可能なバス)が本学駐車場に展示されました。間近に実物を見た参加者は、ほんの数十秒で終わる走行方法の切り替えデモに、簡単に切り替えられる仕組みと、動力系統はノーマルのままという工夫に感心して見入っていました。



エールを送る神田北見市長



ユーモアたっぷりに歓迎挨拶をする鮎田学長



流水ゼミで専門的に応える高橋教授



オホーツク・ブルー・スカイに映えるD.M.V.



バイオゼミでベンチャー企業実践の苦労話をする
山岸教授



G.P.S.ゼミで質問を受ける羽二生教授

父母懇談会(秋季・札幌)を開催

(学生支援課)

例年、春・秋に開催している「父母懇談会(秋季・札幌)」を、9月7日(日)北海道大学学術交流会館を会場として実施しました。

当日は、120組 163名の父母が参加し、田牧副学長からは挨拶と併せて「高等教育における北見工業大学の取り組みの現状と目標」、田中学生後援会会長からは「後援会の活動状況など」について説明がありました。

その後、各学科、専攻に分かれて行われた個別面談では、各学科の教員が対応し、父母からは修学状況、就職問題等について質問が出され、熱心にやりとりが交わされました。

また、個別面談までの待ち時間には、田牧副学長が父母からの質疑に応答する時間が設けられ、大学生活の内容や学生をとりまく生

活環境に焦点がおかれた質問や、学生が就職をするにあたって必要となるであろう基本的事項や情報収集、また大学院の進学と就職に関する質問が寄せられました。



全体説明会の様子

財務諸表等の開示

(財 務 課)

国立大学法人法に基づき、平成 20 年 9 月 10 日付けで文部科学大臣の承認を受けた平成 19(第4期)事業年度の財務諸表(附属明細書を含む。)及び関係書類を、本学ホームペ

ージの情報公開

(<http://www.kitami-it.ac.jp/pubdoc/system/zaimu/index.htm>)に登載しましたのでお知らせします。

SVBLオープンラボ(研究報告会)を開催

(研究協力課)

9月 16 日(火)、総合研究棟多目的講義室においてSVBLオープンラボ(研究報告会)が開催されました。

このオープンラボは午前の研究報告会、午後のラボツアーの二部構成となっています。研究報告会では、鉄触媒炭化による高導電性木炭の製造、地中熱ヒートポンプシステムによる冷暖房システムの最適化研究、北見産ハーブの商品化など、各研究プロジェクトからその研究内容について報告がありました。

午後からは、各プロジェクトの研究室等を見

学するラボツアーが実施され、モーションキャプチャシステム、GPS誘導赤外線空撮システム、ドライビングシミュレータなどの実演や体験を通して、先端技術を肌で感じていただきました。

今回のオープンラボには、本学教職員・学生をはじめ、一般市民、共同研究先企業、地方自治体などから 42 名が参加し、実りある報告会となりました。



ラボツアーの様子

訃 報

(総務課)



本学元学長であり、名誉教授の林正道氏が、平成 20 年9月8日ご逝去されました。(享年 83 才)

林先生は、昭和 23 年4月から昭和 25 年4月まで地方技官として北海道に奉職の後、昭和 26 年7月から北海道開発局土木試験所に勤務され、昭和 45 年4月から昭和 50 年3月まで北海道開発局土木試験所長に就任されました。

その後、昭和 52 年4月に北見工業大学工学部開発工学学科教授として赴任され、北見工業大学において多くの学生の教育・指導にあたり官公庁をはじめ民間企業等に優秀な人材を送り出すとともに、研究面においては、寒冷地におけるコンクリート構造物の耐久性に関する研究に従事し、学会・産業界・官界に大きな貢献をされました。

さらに、昭和 59 年4月から平成2年3月までの6年間は学長の要職に就かれ、本学大学院の設置をはじめ、国立大学の発展・充実及び地域社会の活性化等に多大な功績を残されました。

ここに故人のご冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。

8 月

- 1 日 前期定期試験(～8日)
- 4 日 役員会
- 5 日 教育研究評議会
発明審査委員会
- 9 日 おもしろ科学実験
夏季休業日(～9月23日)
- 20 日 不正防止対策室会議
- 25 日 平成20年度秋季・平成21年度大学院博士前期課程入学試験
- 27 日 平成20年度秋季・平成21年度大学院博士後期課程入学試験
- 28 日 学生委員会
メンタルヘルス講演会
地域共同研究センター産学官連携推進員
協力員合同会議
- 29 日 教務委員会

9 月

- 3 日 北見地域企業立地促進協議会
- 4 日 入学者選抜委員会
- 5 日 教授会、研究科委員会
大学院博士前期課程・後期課程合格発表
- 6 日 人材育成事業合同セミナー
- 7 日 父母懇談会(札幌)
- 8 日 役員会
- 12 日 学位記授与式
- 16 日 役員会
SVBLオープンラボ
- 17 日 教育研究評議会
- 18 日 MOTオープンカレッジ(～19日)
- 22 日 役員会
- 24 日 集中講義・補講等調整期間
メンタルヘルスサポート研修会
- 25 日 教務委員会
- 26 日 経営協議会、役員会
- 29 日 ピア・サポーター研修会(～30日)

